

あやべ特別市民 ニュースレター

綾部に暮らす魅力びと発見

きらり☆綾部人

あやべ観光ガイドの会 代表

いしはら のぶあき
石原 信明 さん (宮代町)

綾部に息づく安らぎの空気感を伝えたい

綾部を訪れる観光客や市民らに、キラリと光る観光スポットを、その背景や秘話を交えながら案内する観光ガイドとして活躍する石原信明さん(68)。平成21年に発足した「あやべ観光ガイドの会」の代表を務める。かつて城下町の中心として栄えた本町出身で、子どもの頃から、心優しく穏やかな気質の住民が暮らすふるさと綾部を誇りに感じて生きてきたという。8年前、市民新聞にガイド募集の記事を見つけると同時に応募。「こんなに安らかで幸せを感じられる綾部の街のことを沢山のの人に伝えていける活動に参加することは夢だった」と目を輝かす。

石原さんが得意とするガイドは市街地。「万教同根」の思想を持つ「大本」と「至誠こそ万事の礎」とする「グンゼ」という双壁を発祥させた綾部には、深い哲理と人を幸せにするパワーが息づいている。この豊かな風土から生まれた歴史や自然、人々の暮らしの文化や街並み、その空気感は、訪れた人が癒しを感じ、静かに人生と向き合える場所なんです」と話す。今春にはガイドの会と観光協会が協力し、小さな街中に散りばめられている“知る人ぞ知る観光スポット”に「観光案内板」が設置される(写真小・こげ茶色の案内板)。「今後は自治会や高齢者サロンなどへの出張ガイドや、地域の子ども達にふるさとの姿を伝えていける活動に取り組みたい」と抱負を語る石原さん。看板設置を機に市民にも、今まで見過ごしてきた地域のパワーを感じてほしい。

このコーナーでは、綾部を中心に様々な方面で活躍している「きらりと輝く」魅力あふれる人々をご紹介します。



「暇さえあれば、図書館に行って郷土史や地理、思想、文化などを研究しています」と話す石原さん。ツアーのしおりやガイド資料なども、すべて手作りしている。



観光客に田町の「皇后坂」について解説する。大正6年11月16日に貞明皇后の綾部行啓の際に、御召の馬車が通行できるように人力を結集して拡幅を行ったという。



「いっぶく半月庵」の建物は、もとは「扇屋」という屋号で、文化7年に起こった本町通りの大火の焼け跡の一部を買い入れて味噌、醤油、油類の商いを始め、町の復興に一役買った。



りょうごんじ 楞巖寺 つつじトンネル あやバス志賀南北線「館」バス停下車 徒歩15分

あやべ 特別市民 会員特典

ふるさとあやべの応援団

あやべ特別市民制度

まゆびー

特典1 綾部の特産品を送付(年3回)

市内飲食店の割引券・市内施設の無料利用券を送付
「あやべ温泉入浴無料」携帯クーポンをメール配信

※携帯からは右記のQRコードよりメルマガにご登録ください。



メルマガ
QRコード

特典3 会報・市広報紙を送付
旬の情報をメールマガジンで随時配信

特典4 ふるさとカレンダーを送付

年間ふるさと 産品案内チラシ

を同封しますので、ご確認ください。



※受付締切は6月20日となります。

綾部市秘書広報課

〒623-8501 京都府綾部市若竹町8-1
TEL 0773-42-3280(代表) 内線212
TEL 0773-42-4204(直通)
FAX 0773-42-4905
e-mail: hisiyokoho@city.ayabe.lg.jp

ニュースレター

発行: 綾部市 企画・編集: 綾部市観光協会
綾部市観光協会 TEL 0773-42-9550

綾部市公式Facebookページ
皆様からの「いいね!」をお待ちしています。

新緑が芽吹く季節となりました。皆様お元気にお過ごしのこととお喜び申し上げます。「あやべ特別市民制度」は平成11年に発足し、今年19年目を迎えることができました。皆様のご支援ご厚情に深く感謝いたします。

今後もこの制度を“綾部創生”の基盤として、綾部の特産品の振興や魅力発信、さらには定住・交流促進につなげてまいりたいと思っております。皆様の信頼にお応えできるよう一層の制度の充実にも努めてまいります。変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

綾部市長 小南 希也



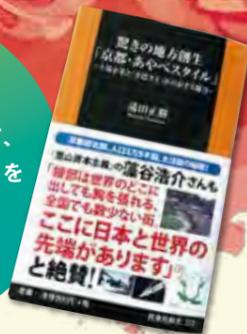
今すぐ
アクセス!

綾部の旬が盛りだくさん! あやべ特別市民ホームページ
<http://www.ayabefan.com/>



驚きの地方創生

あやべ特別市民
「ごあいさつ便」として、
『京都・あやべスタイル』を
会員の皆様全員に
お贈りいたします。



「京都・あやべスタイル」

～上場企業と「半農半X」が共存する魅力～

著者 蒲田 正樹さん インタビュー



昨年11月に『驚きの地方創生「京都・あやべスタイル」～上場企業と「半農半X」が共存する魅力～』が出版されました。初版発行部数8000冊から2回版を重ね、現在、累計販売部数は1万4000部を突破。市町村単位の地方創生をクローズアップした他に類を見ない新書は、多くの反響を呼んでいます。著者の蒲田正樹さんに、執筆にまつわるお話をお聞きしました。

【インタビュー：白波瀬 聡美 於：あやべ観光案内所】

—「京都・あやべスタイル」には、市民でも詳しくは知らないような綾部の取り組みや魅力が多く記されており、読者の一人として改めて我が街を誇れるきっかけとなりましたが、綾部とはどのようなご縁があったのでしょうか。

元々は、私の父親（蒲田春樹氏）が日東精工さんの人材教育に40年近く携わっており、父が監修を務めた教育テキストの編集を手伝っていたのが、綾部との間接的なご縁の始まりです。その後、社内にとどめておくのはもったいないので一般書にしてはどうか、という企画をご提案し『人生のねじを巻く77の教え』が刊行されました。それをきっかけに、日東精工さんと私自身との関係が深まり、同

社の広報紙ニュースレターの編集にも携わるようになって。その中で、綾部の街の魅力を紹介するページを連載することになり、2014年12月頃から市内をうろろろ取材して歩くようになりました。正直なところ、小さな街だからすぐにネタは尽きてしまうだろうとタカをくくっていたのですが、調べれば調べるほど「あやべファースト」の取り組みや魅力的な人に出会って、すっかり綾部にハマってしまったというわけです。

—足繁く取材に通ってくださっていたんですね。印象に残っている取材先などはありますか？

綾部駅と日東精工さんをタクシーで往復しているだけの頃は、自分の心に響くものはあんまりないな～という印象でした（笑）。悪い印象もなければ、良い印象もない。しかし、先ほども言った通り、ひとたび調べだすと、面白い取り組みがたくさんあって。それからは、自転車を借りたり、自分の足で歩いたりして、風情ある街並みや田園風景の美しさ、人々の温かさに触れ、一気に綾部ファンになりました。グンゼや大本はもちろんのこと、伝統産業の黒谷和紙の素晴らしさや、綾部教会で、修道女・吉川茂仁香さんと皇后陛下のエピソードを聞いたことなどは、特に印象に残っています。

—そういえば…私は駅の観光案内所に勤務していますが、以前に蒲田さんが「レンタサイクルで志賀郷まで行く」とやって来られて、「遠いですよ」とお引き留めしたことを思い出しました。結局、「僕、自転車で走り回るの好きですから、大丈夫です」と乗っていかれましたが（笑）。確か、この「あやべスタイル」発刊の企画を、市役所へ話に行かれるとおっしゃった日も、お会いしてお話ししましたね。

そうでしたね～。確かに、自転車で志賀郷まではちょっと遠かったです（笑）。思えば不思議なご縁ですよ。そんな風に、本書出版にあたってはたくさんの地元の方と不思議なご縁でつながって、あれよあれよという間に協力者が広がり、どんどんいい方向に進んでいくことが多かった気がします。

特に、山崎善也市長や四方八洲男前市長の綾部への熱い思いや、先見の明、判断のスピード感、フットワークの軽さと行動力には脱帽です。あとがきにも書きましたが、「グンゼ創業120周年」や「日東精工のねじ事業60周年」、「水源の里発足10年」など、綾部に影響のある大きな節目が重なったことも、ありがたいご縁だと思っています。

それにしても綾部の人って、本当に温かいですよ。これは本の中でも紹介していますが、国会図書館でも京都府立図書館でも見つからなかった古い文献（グンゼ創業者・波多野鶴吉氏関連）が、たまたま入った綾部市内のカフェの棚に無造作に並べてあって本当にびっくり。でも、ゆっくりと目を通す時間がないのを残念がっていたら、「持っていていいですよ」と言われて、さらにびっくりです。偉い方からの紹介があるわけではなく、まったくの一見の客です。こちらが細かい事情を説明する前に、無条件で貴重なものを貸し出してくれる、度量の大きさに感激です。

—「綾部は“つなぐ”というテーマにふさわしい街だと思っています」という蒲田さんの言葉が、とても嬉しく心に残っています。私も中学生の息子にこの本を薦めたところ、読み終わって「綾部って、すごいとこなんやなあ！」という感想を聞きました。また案内所では、綾部土産に買って行かれる観光客もおられます。次世代や市内外へ綾部の魅力を“つなげられる”ツールを制作いただいたことに感謝しています。

そう言っていただけるとありがたいです。私も本書をきっかけに、長崎県佐世保市でも地方創生本を出すことになりましたし、綾部市内の色々な方と複数の本の企画も進んでいます。綾部は、私個人のビジネスも“つないで”くれており、感謝しています（笑）。手前味噌ですが、拙著の『京都・あやべスタイル』は1つの街を切り口にした全国初の地方創生本ではないかと思っております。「あやべファースト」の仲間入りができたら嬉しいなと思っています。



—最後に、今回ごあいさつ便として『京都・あやべスタイル』をお届けするあやべ特別市民の皆様にご挨拶をさせていただきます。

綾部に思い入れのある皆様方に読んでいただくには、まだまだ綾部の上っ面をなでた程度の内容で大変恐縮ですが、少しでも全国の皆様に私が感じた綾部の魅力を伝えるきっかけになればと思い、執筆いたしました。またご感想などをお聞かせいただくと光栄です。まだまだ伝えきれていないネタもありますので、第2弾、第3弾が出来たらいいなとも考えています。

それから、私も今年度から「あやべ特別市民」に入会させていただきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします！

【プロフィール】 蒲田 正樹 (かまた まさき)

出版社で雑誌編集長などを歴任後、㈱ワードスプリング設立。雑誌、書籍の編集や広告に携わる一方で、上場企業や地方自治体の広報やマーケティングをサポートしている。「人生の「ねじ」を巻く77の教え」（ポプラ社）など企業本のほか、「大使館御用達レストラン」（扶桑社）「しあわせは微笑みが連れてくるの」（メディアファクトリー）「魅惑の京都 ふしぎ発見」（PHP研究所）など企画は多岐にわたる。

